令和６年度「米原市学力状況調査」の結果について

１　調査の概要

（１）調査の目的

米原市では、児童生徒の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るため、平成 17 年度から学力状況調査を実施している。

この調査は、学習内容の理解度を測る「教科学力」とともに、その背景となる「学習意識」も客観的に調査し、米原市の児童の学ぶ力の実態を多面的に把握するものである。

そして、その結果を分析し、各学校の実態に応じた授業改善へとつなげていく。さらに、学校が児童生徒一人ひとりの学習定着状況を把握し、的確な個別指導を行うための一助とする。

（２）調査の対象および内容

・調査対象　…　小学校第４学年（市内９校）331 人

・調査内容　…　標準学力調査　国語・算数の２教科（各 40 分）

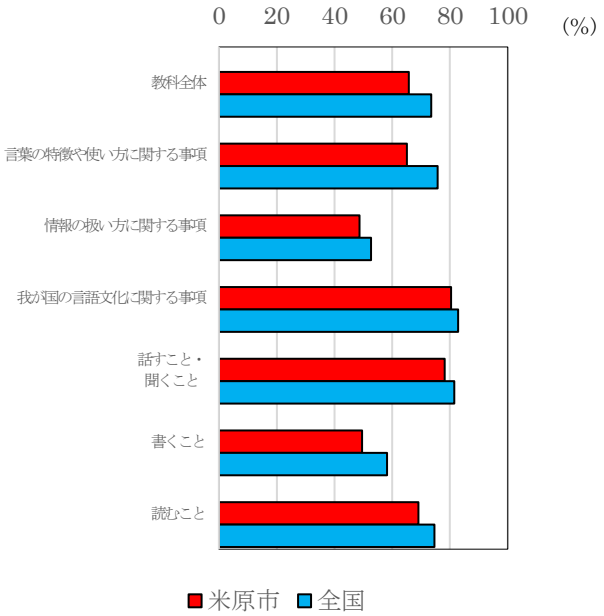
質問紙調査　　「自己認識」「社会性」「学級環境」「生活・学習習慣」「米原市独自の質問」（40 分程度）

・調査期日　…　令和６年５月 27 日（月）～５月 31 日（金）のうち各校が定めた日

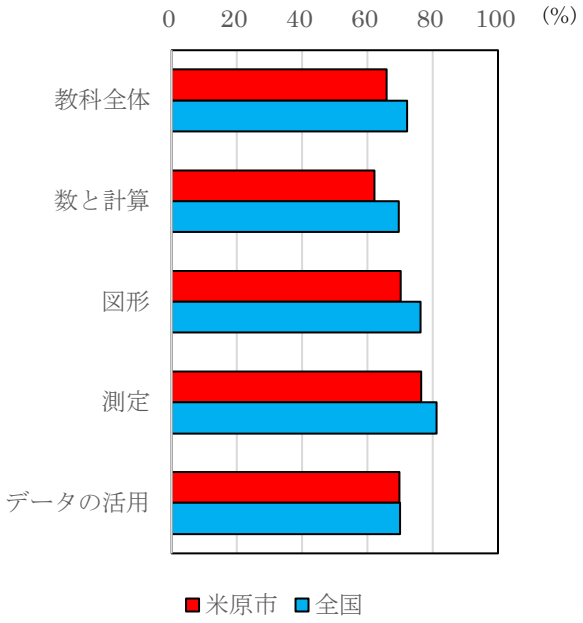
２　標準学力調査の結果

（１）標準学力調査の平均正答率

【国語】



【算数】



・４年生国語を見ると、全国平均を下回っている。問題の領域では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」に課題があるといえる。

・４年生算数を見ると、全国平均を下回っている。問題の領域では「数と計算」「図形」に課題があるといえる。

（２）全国正答率と比較して差が大きい問題

【国語】「言語の特徴や使い方に関する事項」

3 次の問題に答えましょう。

(1) 次の文で、主語と述語はそれぞれ何ですか。正しい組み合わせを、あとから一つえらんで、その番号を書きましょう。

母は弟を大きい声でよんだ。

1 主語…母は　述語…大きい
2 主語…母は　述語…よんだ
3 主語…弟を　述語…大きい
4 主語…弟を　述語…よんだ

「書くこと」

7 中野さんがじどう館に行くと、五さいくらいの二人の子どもが、一さつの絵本を取り合っていました。

中野さんは、二人ともこの絵本を読めるようにしたいと思い、次の二つの方ほうを考えました。

ア　二人でいっしょに読む。
イ　じゃんけんで勝った子が先に、負けた子があとに読む。負けた子は、ほかの本を読んで待つ。

あなたは、アとイの方ほうのうち、どちらがよいと思いますか。あなたの考えを、次の〈注意する点〉を守って書きましょう。

〈注意する点〉
① 六行から、八行の間で書くこと。
② 二つの段落に分けて書くこと。
③ 一つ目の段落には、アとイの方ほうのうち、どちらがよいと思うかを書くこと。
④ 二つ目の段落には、その方ほうがよいと思う理由や、もう一つの方ほうをえらばない理由を書くこと。

【算数】「数と計算」

3 次の問題に答えましょう。答えは**1**～**4**から１つえらんで，その番号を書きましょう。

（1） $\frac{1}{6}$ mの６こ分の長さは何mですか。

1 1m　　**2** 6m
3 3m　　**4** 12m

（2） 下の数直線で，↑のめもりが表す分数はいくつですか。

1 $\frac{3}{4}$　　**2** $\frac{4}{5}$
3 $\frac{3}{7}$　　**4** $\frac{4}{3}$

３　質問紙調査の結果

（１）質問紙調査の肯定率

①「肯定率」とは

肯定率…４択の質問のうち、良好な回答１、２の合計のこと。

② カテゴリー分類

Ⅰ 自己認識 ⇒『愛されているか』…「家族のささえ」「友だちのささえ」「先生のささえ」

⇒『自己肯定感』…「成功体験と自信」「充実感と向上心」「他者からの評価」「感動体験」

Ⅱ 社会性 ⇒『ソーシャルスキル』…「規範意識」「思いやり（人間関係構築力）」「発信力」「対話・話し合い」

Ⅲ 学級環境 ⇒『学級風土』…「学級の規範意識」「学級の絆」

⇒『リスク管理』…「いじめのサイン」「対人ストレス」

Ⅳ 生活・学習習慣 ⇒『生活習慣』『学習習慣』『学習意欲』

③ 小学校第４学年の肯定値

分類	区分	米原市	全国	全国との差	
自己認識	家族のささえ	92.7	90.8	1.9	
	友だちのささえ	88.4	85.7	2.7	△
	先生のささえ	86.5	83.0	3.5	△
	成功体験と自信	86.8	84.8	2.0	△
	充実感と向上心	88.9	86.4	2.5	△
	感動体験	80.6	79.0	1.6	
	他者からの評価	63.1	62.9	0.2	
社会性	規範意識	84.3	82.5	1.8	
	思いやり（人間関係構築力）	88.8	87.7	1.1	
	発信力	65.8	62.9	2.9	△
	対話･話し合い	90.3	89.7	0.6	
学級環境	学級の規範意識	69.9	71.0	−1.1	
	学級の絆	91.1	87.4	3.7	△
	いじめのサイン	80.6	82.0	−1.4	
	対人ストレス	58.4	62.7	−4.3	▼
生活 学習習慣	生活習慣	76.2	76.1	0.1	
	学習習慣	51.5	55.0	−3.5	▼
	学習意欲	77.3	77.1	0.2	
平均		79.0	78.1	0.9	

(%)

・最も肯定値が高い質問

「家の人は、あなたにとって大切な人ですか。(家の人とは、今いっしょにくらしている人のことです)」98.2

・最も肯定値が低い質問

「じゅぎょう中、クラスの人がさわいだり、おしゃべりをしたりして、勉強に集中できないことが、ありますか。」43.7

・全国と比較して肯定値が高い質問

「あなたは、学校生活の中で他の人が発言したり、発表したりするときに、質問をしていますか。」56.3(+9.6)　「つらいことや、こまったことを、学校の先生に相談できますか。」67.3(+7.2)

・全国と比較して肯定値が低い質問

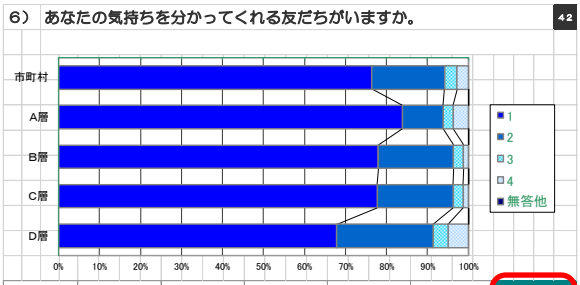
「本当はいやなのに、いっしょに遊びたくて、友だちの意見に合わせたり、いっしょに行動したりすることがありますか。」 52.0(−7.4)

「家族のささえ」「対話・話し合い」「学級の絆」の値が９割を超え、良好である。一方、「他者からの評価」「対人ストレス」「学習習慣」が７割未満である。全国平均と比較すると「学級の絆」が良好である。一方、全国平均と比較すると「対人ストレス」に課題である。

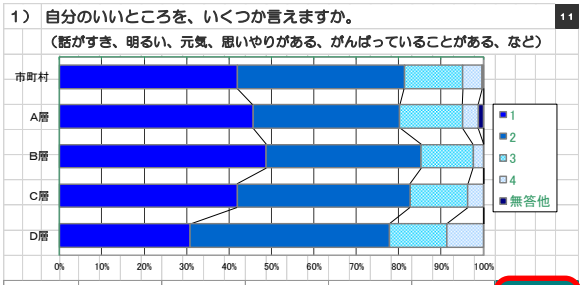
（2）学力調査結果とのクロス集計

※標準学力調査の受検教科平均正答率で 4 等分し 、上から A 層、 B 層、 C 層、 D 層と分けています。

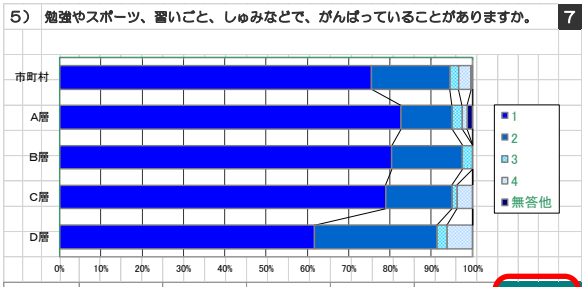
① Ⅰ 自己認識



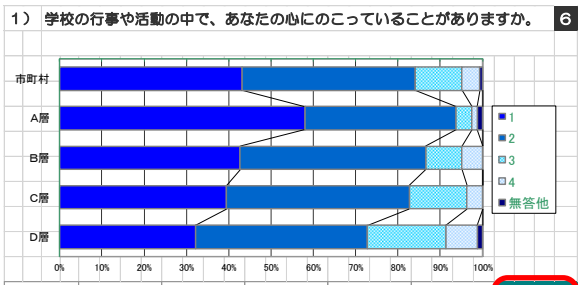
選択肢	1 よく分かってくれる友だちがいる	2 まあまあ分かってくれる友だちがいる	3 たぶんいない	4 一人もいない	無答他	肯定率
市町村	76.5	17.7	3.1	2.8	0.0	94.2
A層	84.0	9.9	2.5	3.7	0.0	93.8
B層	78.0	18.3	2.4	1.2	0.0	96.3
C層	77.8	18.5	2.5	1.2	0.0	96.3
D層	67.9	23.5	3.7	4.9	0.0	91.4



選択肢	1 言える	2 一つは言える	3 思いつかない	4 言えない	無答他	肯定率
市町村	41.9	39.4	13.8	4.6	0.3	81.3
A層	45.7	34.6	14.8	3.7	1.2	80.2
B層	48.8	36.6	12.2	2.4	0.0	85.4
C層	42.0	40.7	13.6	3.7	0.0	82.7
D層	30.9	46.9	13.6	8.6	0.0	77.8



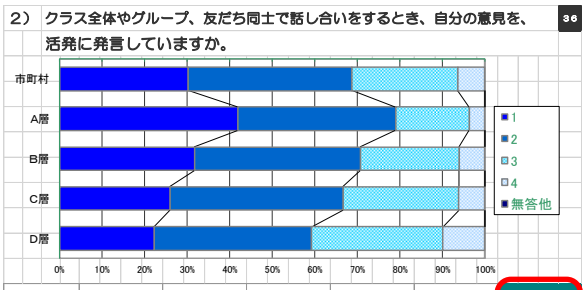
選択肢	1 とてもがんばっていることがある	2 いちおうある	3 思いつかない	4 まったくない	無答他	肯定率
市町村	75.5	19.0	2.1	3.1	0.3	94.5
A層	82.7	12.3	2.5	1.2	1.2	95.1
B層	80.5	17.1	2.4	0.0	0.0	97.6
C層	79.0	16.0	1.2	3.7	0.0	95.1
D層	61.7	29.6	2.5	6.2	0.0	91.4



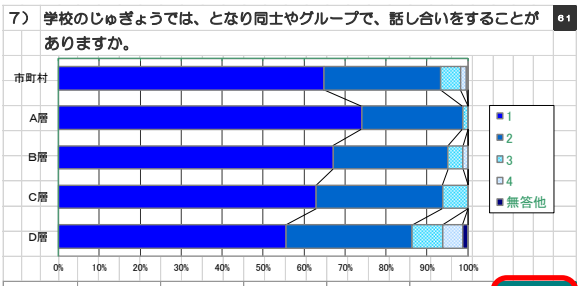
選択肢	1 強くのこっていることがある	2 いちおうある	3 思いつかない	4 まったくない	無答他	肯定率
市町村	43.1	41.0	11.0	4.3	0.6	84.1
A層	58.0	35.8	3.7	1.2	1.2	93.8
B層	42.7	43.9	8.5	4.9	0.0	86.6
C層	39.5	43.2	13.6	3.7	0.0	82.7
D層	32.1	40.7	18.5	7.4	1.2	72.8

家族、友だちのささえがある児童ほど、学力が高い傾向にある。
自慢できることや得意なことのある、自己肯定感の高い児童ほど、学力が高い傾向にあ

② Ⅱ 社会性



選択肢	1 いつもしている	2 まあまあしている	3 あまりしていない	4 まったくしていない	無答他	肯定率
市町村	30.3	38.5	24.8	6.4	0.0	68.8
A層	42.0	37.0	17.3	3.7	0.0	79.0
B層	31.7	39.0	23.2	6.1	0.0	70.7
C層	25.9	40.7	27.2	6.2	0.0	66.7
D層	22.2	37.0	30.9	9.9	0.0	59.3

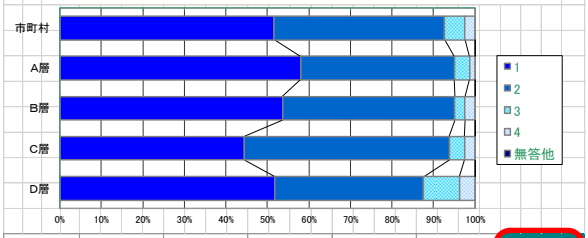


選択肢	1 よくある	2 まあまあある	3 あまりない	4 まったくない	無答他	肯定率
市町村	64.8	28.4	4.9	1.5	0.3	93.3
A層	74.1	24.7	1.2	0.0	0.0	98.8
B層	67.1	28.0	3.7	1.2	0.0	95.1
C層	63.0	30.9	6.2	0.0	0.0	93.8
D層	55.6	30.9	7.4	4.9	1.2	86.4

友だち同士で話し合いをするとき、発信力のある児童や、対話・話し合いの頻度が多いほど、学力が高い傾向にある。

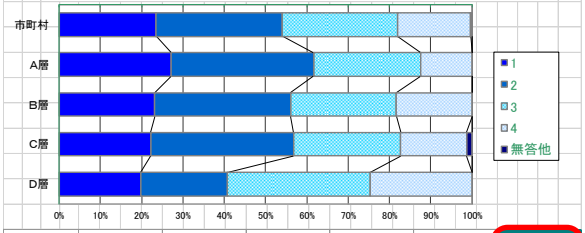
③　Ⅲ 学級環境

5）あなたのクラスには、助け合ったり、はげまし合ったりするふんいきが、ありますか。 28



選択肢	1 とてもある	2 まあまあある	3 あまりない	4 まったくない	無答他	肯定率
市町村	51.7	41.0	4.9	2.4	0.0	92.7
A層	58.0	37.0	3.7	1.2	0.0	95.1
B層	53.7	41.5	2.4	2.4	0.0	95.1
C層	44.4	49.4	3.7	2.5	0.0	93.8
D層	51.9	35.8	8.6	3.7	0.0	87.7

7）学校に行きたくないと思うことがありますか。 47

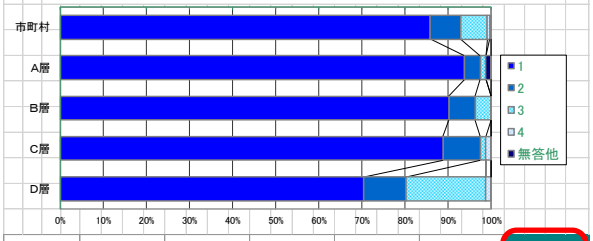


選択肢	1 ない	2 ほとんどない	3 ときどきある	4 よくある	無答他	肯定率
市町村	23.5	30.6	27.8	17.7	0.3	54.1
A層	27.2	34.6	25.9	12.3	0.0	61.7
B層	23.2	32.9	25.6	18.3	0.0	56.1
C層	22.2	34.6	25.9	16.0	1.2	56.8
D層	19.8	21.0	34.6	24.7	0.0	40.7

対人ストレスに対して良好な回答をする児童ほど、学力が高い傾向にある。

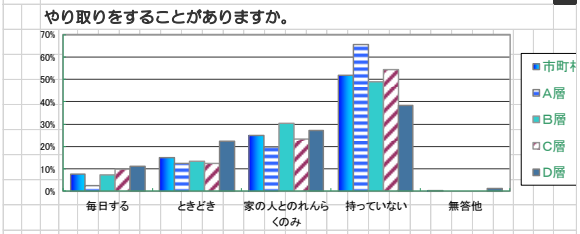
④　Ⅳ 生活・学習習慣

1）朝ごはんを、毎日食べていますか。 2



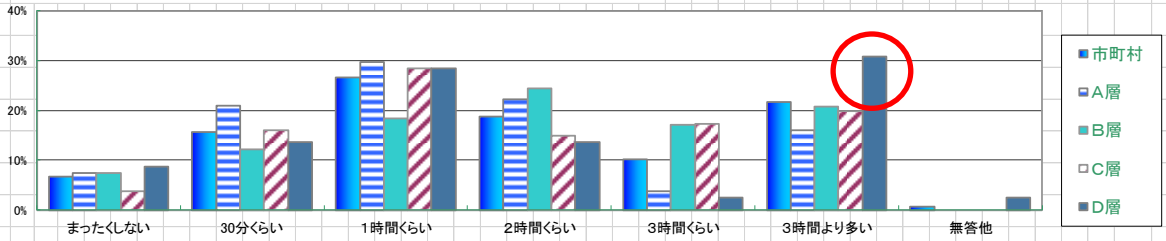
選択肢	1 毎日しっかり食べている	2 毎日だいたい口に入れるていど	3 食べたり食べなかったり	4 ほとんど食べない	無答他	肯定率
市町村	85.9	7.0	6.1	0.6	0.3	93.0
A層	93.8	3.7	1.2	0.0	1.2	97.5
B層	90.2	6.1	3.7	0.0	0.0	96.3
C層	88.9	8.6	1.2	1.2	0.0	97.5
D層	70.4	9.9	18.5	1.2	0.0	80.2

4）スマートフォンやけいたい電話などで、友だちとメールやSNS（LINE㊙など）でのやり取りをすることがありますか。 64



選択肢	1 毎日する	2 ときどき	3 家の人とのれんらくのみ	4 持っていない	無答他
市町村	7.6	15.0	25.1	52.0	0.3
A層	2.5	12.3	19.8	65.4	0.0
B層	7.3	13.4	30.5	48.8	0.0
C層	9.9	12.3	23.5	54.3	0.0
D層	11.1	22.2	27.2	38.3	1.2

2）平日（月～金）は、１日にどれくらいテレビや動画を見たり、インターネットを使ったり、ゲームをしたりしますか。 67



選択肢	1 まったくしない	2 30分くらい	3 1時間くらい	4 2時間くらい	5 3時間くらい	6 3時間より多い	無答他
市町村	6.7	15.6	26.6	18.7	10.1	21.7	0.6
A層	7.4	21.0	29.6	22.2	3.7	16.0	0.0
B層	7.3	12.2	18.3	24.4	17.1	20.7	0.0
C層	3.7	16.0	28.4	14.8	17.3	19.8	0.0
D層	8.6	13.6	28.4	13.6	2.5	30.9	2.5

朝ごはんを毎日しっかり食べている児童は学力が高い傾向がある。
平日に、テレビや動画、インターネットを使ったり、ゲームをしたりする時間が３時間より多い児童は、学力が特に低い層が突出して多い。
友だちとメールやSNSでのやり取りを毎日する・ときどきする児童は、学力が特に低い層が突出して多い。

４　考察

今回の学力調査では、国語・算数ともに全国平均を下回り、課題が見られた。その要因として、国語では、特に書くこと（文章を書く問題）に苦手意識が見られることから、改善策として、身近な出来事について、日頃から短い文章を書く機会を増やし、書くことに慣れさせる取り組みが考えられる。また、その際に正しい言葉を正しい漢字を使って書くことを意識させることが大切である。算数では、特に「わり算」や「大きな数・小数・分数」をはじめ、基礎的な学力の定着ができていないことから、改善策として、モジュール学習やドリル教材などを活用した持続的な反復練習や、「長さ・重さ」や「時刻と時間」など、児童に身近な例を積極的に取り上げる取り組みが考えられる。

また、「生活・学習習慣」も要因の一つとして考えられる。クロス集計の結果から、動画やインターネット、ゲームの利用時間等の生活習慣や、間違えた問題の復習などの学習習慣と、平均正答率との間に相関が見られる。このことから生活・学習習慣の充実が学力と結びついていると推察される。

５　学力向上の策定について

今後も学校では、児童理解につとめるとともに、子ども一人一人に合わせた支援を行っていきたい。また、市内各小中学校においても、各校独自の分析や課題改善に向けた学ぶ力向上策を策定し、具体的な取組と検証を進めていく。

一方、家庭での生活・学習習慣のますますの定着を目指して、学校と家庭がしっかりと連携していきたい。当センターで作成した「家庭学習の手引き」や「まいばら学び虎の巻」を各家庭でも活用いただければ幸いである。

さらに、クロス集計で学力との相関が見られた児童の「自己肯定感」を育むことも大切にしていきたい。学校でも家庭でも児童が充実感を得られる経験を増やすとともに、児童一人一人のがんばりを認め、心豊かでたくましい米原っ子を育てていきたい。